



第八卷 第二號

発行所 方城村公民館
編集発行人 辰巳半蔵
印刷所 辰巳印刷合資会社
冷牟田印刷合資会社

選挙に對する自覚

方城村選挙管理委員会

昔、ギリシャの国ではポリスの人々が一堂に集まって、皆んなの相談ごとをきめていた。丁度村の部落総会で、各戸から一人宛集って部落の行事計画や、その経費の分担の事などをきめていたように、それから段々社会が発達して複雑になり、社会機構が膨大化してくるに従って、ポリスの人々が全部一堂に集まることができなくなつた。
そこで人々は選挙によって自分達に代る人々を選び、その人々に自分達の権利(民主主義国家に於ける住民の参政権)をまかせるようになったのである。そのような仕組みが次第に民主主義国家の基本的な制度として固められてきたのであり、現在のこのような精緻な選挙制度となつた。このように選挙制度の歴史を考えてみると、要するに選挙制度とは私達が私達の社会を自らの手によって運営して行くために、考案した社会的制度であるといふことができる。後世

に生れて先祖の遺産を引継いだ私達は、ともすればその遺産の大きさや、美しさに目を奪われて、それが築かれてきた本領を忘れ易いのであるが、選挙制度を考えるに當つても、私達は選挙制度の目的は、あくまでも国民又は住民が自分達のため、自分達の事をやるのだといふ点にあることを忘れてはならないのである。ことに主権在民を謳つていて憲法の下では、選挙権は私達自身のものである。即ち義務と云うよりも、私達の権利であるといふことを自覚しなければならぬ。私達は自分達の代りに国会議員や都道府県や市町村の首長や議員・教育委員を選んでいるのである。
彼等は私達の代表者なのである。誇張していへば彼等は私達なのである。選挙によって選ばれた議員や役人が私達の毎日の生活の感覚からは、無縁とまではいわれないにしても、遙かに遠い世界の人々のように思われ

ることも改めて自覚しないわけにはいかなかった。彼等は本当に私達の代表者なのであるか。私は金バツチを胸につけ、胸をさらせてのし歩か議員を思いだし、国会の乱闘騒ぎや、政界の再編成等と云う名の下の離合・集散している政界人と云う特別な人々の集団を脳裏に浮べた。そして村で今度の選挙は誰々さんですからと云つて、各戸を廻つていた顔役の事を考えた。そして選挙制が初期の簡単なものから、非常に複雑精緻なものへと築きあげられて来たために、遂に人々がその機構の中に巻込まれてしまつて、機構の全体を見渡す事が出来なくなつていゝのではないかと考えた。
それから私は家庭で食後の座談に花を咲かせ作り、更に次のような事を考えさせられた。
私自身が選んだ候補者が日本の政治を論じ、都道府県や市町村の政治や行政を運営して行く、これだけは間違いない事実である。そして民主主義のルールに従つて私達自身の事が、私達の代表者によって決められ実行されて行く、そのような手続に依つて私達のふところから税金が支払われ、それが国防費となり、道路費・河川費・厚生費・教育費・産業経済振興費等となつて私達個人の手に得られない社会全体の幸福となつて再び自分自身に返つてくる。それが団体・社会・国家と云うものなのであり、そして私達は現にその中で生存しているのである。選挙によつて代表者を選ばれる人も、そのよう

この一票政治と 家庭を結ぶ紐

云う根本問題が横たわつていゝといふ。
この自覚が向上しない限り、どんな選挙違反を非難しても、公明選挙を唱えても、選挙は立派に行われ難いと思われ。自覚のない代表者が選ばれることは、根本的に云へば、選ぶ人々に自覚がないと云うことである。
私達は自分達の社会をよりよくし、自分自身の幸福を増進するために、まず選挙を明るく正しいものにしなければならぬ。そして最終的にはやはり私達自身の自覚を高める以外方法はありません。

Table with 4 columns: 区, 分, 男, 女. Rows include 当日の有権者数, 投票者数, 棄権者数, 投票率.

Table with 4 columns: 投票所, 男, 女, 計. Rows include 第一投票所(舟城小学校), 第二投票所(役場), 第三投票所(伊方小学校), 第四投票所(進徳所).